

寄稿

技術士包装物流会の 50 年に思う



技術士包装物流会
理事 坂巻 千尋

技術士包装物流会は 1967 年に星野茂男技術士を初代会長として発足し今年 50 周年を迎えます。技術士試験が始まったのが 1958 年ですから 10 年足らずの間に包装関連の諸先輩方がその基礎を築かれ、現在に至るまで包装業界を牽引されてきた功績に尊敬と感謝を致します。

私は 1979 年に凸版印刷に入社し包装関連の研究所に入った事でキャリアをスタートさせましたが、その時に包装研究所長だったのが 1988 年から 1991 年迄当会の会長をされた水口真一技術士で、大変お世話になりました。当時から同氏が技術士であるという事は聞いていましたが自分には縁の無いものだと思っていました。

そんな私が技術士になり当会に入ったのは JPI に依頼されて始めた包装管理士講座の研修委員になったのが一因でした。参加者の論文の採点や面接試験が担当ですが、最初の年の委員長が 80 年、81 年と当会会長だった門屋卓先生、翌年の委員長が 92 年、93 年会長の牧野輝男技術士で他の委員は業界の有名人で皆当然の如く包装管理士、包装専士の方々でした。一方私はコンバーターの包装担当ではありますが、JPI が主催するこのどちらの資格も持っていません。そんな時当会の受験説明会に参加し、包装・物流技術士の紹介を受け何とか技術士になる事が出来ました。今活躍されている技術士の皆さんを目標に企業内で頑張っている若手の技術者は多いと思います。

これからも当会がこれからも包装、物流業界をリードしていける様に、常に最先端且つ基本となる技術を自ら習得し、提供し続けたいと思っています。継続研鑽は技術士としての責務ではありますが、各位と共にこれからの包装・物

流業界の発展に繋がる活動をして行く事が大事だと思います。また、若手の技術者に技術士の魅力と受験への動機付けが出来ればと思っています。社内技術士を増やす活動もその端緒として取り組んで行きたいと考えています。